

重点方針	戦略分野	行動目標	KGI	実施計画	
<p>● 「可能性」から「夢」を連想させ、夢の実現に向けた教育・研究活動を推進します。さらに、地域に根差した教育・研究活動を強化します。</p> <p>● 可能性を育む教育・研究活動の推進</p>	<p>1. 教育の深化</p> <p>主体的に学び、社会で活躍する人材育成のため、すべての学生が広い視野、柔軟な発想力、応用力を養え、本大学で成功体験を得られるための教育体系の構築と教育内容・手法・環境等の整備を行う。</p>	(1)能動的学習方法を取り入れた主体的な学びの拡大	<ul style="list-style-type: none"> ◎能動的な学習が出来る講義において100%導入 ◎学習支援室、Study Lounge、図書館等の充実 ◎学生一人あたりの図書貸出冊数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ①持続可能な社会づくり、地方創生の担い手を育む教育の充実 ②主体的学修環境の改善 ③電子リソース環境の充実化 ④学園全体を対象としたラーニング commons のICT支援プラットフォーム化 	
		(2)3つのポリシーに沿った教育体系の整備と見直し	◎ポリシーに沿った教育体系の確立	①カリキュラムの整備と改革 ②教育の質を高めるためのFD・SDの強化	
		(3)大学での学びやプロジェクト活動を実施できる学修環境の整備	◎学修環境整備 (ICT化) 100%	①アクティブな学びの環境整備 ②教育の活性化のための新たな取組 ③学修支援に関する環境整備	
		(4)更なる発展に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ◎学部学科の組織再編 ◎女子学生比率の増加 	①将来を見据えた学部学科再編の検討・立案 ②将来を見据えた適正な定員規模及び定員管理の検討・立案	
	<p>2. 研究の深化</p> <p>研究は、教員の質を高めるための過程であると共に、その成果は、地域に還元できるものであることが求められる。研究の内容を深化させ、地域貢献に役立つ研究を推進する。</p>	(1)地域活性化の役割を担う研究活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎北陸地方の地域課題をテーマにした研究の増加 ◎産学官による受託研究、共同研究等の件数の増加 (H30年度比 50%増) 	①地域との協議体制の整備 ②地域課題研究の推進 ③リサーチアドミニストレータの育成と配置	
		(2)研究活動に集中できる環境の整備	◎若手研究者の満足度向上	①研究者同士の情報交流機会の創出 ②若手研究者育成研究費の継続 ③教員負担度の改善	
		(3)積極的な研究活動の発信	<ul style="list-style-type: none"> ◎大学主体イベントの年1回以上の企画 ◎教員による研究活動の情報発信の増加 	①県内外開催の展示会等への出展 ②Researchmap等を活用した研究業績の公開 ③研究活動報告企画の検討・実施	
	<p>3. 地域連携の深化</p> <p>地域の歴史と伝統を理解したうえで、多様な人々と協働する地方創生を担う人材を育成する。また、地域で活躍する学生と企業・自治体等との繋がりを創出させて、「産学官」の連携強化を図る。さらには、FUTファミリーとしての魅力度の向上と交流の充実を図ることにより、地域協創拠点として深化し、地域を先導・牽引する。</p>	(1)地域・未来志向型の教育・研究・学修活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域の関わりのある学修活動 (PBL等) への教員取組率 60%以上 ◎日経グローバル「大学の地域貢献度に関する全国調査」東海・北陸地区の国公立大学 10位以内 	①ふくいPHOENIXプロジェクトの継続事業の実施 ②学科の特色を活かした活動の強化 ③市民との関わりを通じた学修活動の活性化	
		(2)地域を育むダイバーシティの推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎同窓会総会等の参加者数の増加 (H30年度比 2倍) ◎OB・OGの愛校心、満足度の向上 ◎リカレント教育の企画・実施 	①FUTファミリーとしての魅力度の向上と交流の強化 ②多様なニーズを持つ者へのリカレント教育の創出 ③地域の有識者による授業の展開或いはゲスト講話の実施	
		(3)地域を牽引・地域と協創できる環境の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎ボランティアの組織体制の構築 ◎ボランティア参加者数の増加 ◎地域市民の公開講座受講数の増加 ◎行政委員会等への教員参画数の増加 ◎日経BPコンサルティング「大学ブランドイメージ調査」東海・北陸地区の国公立大学 20位以内 	①地域に開かれた大学としてのイメージ強化と受入整備 ②大学での学びや経験を活かしたボランティアの参加促進 ③未来塾公開講座のプログラムの見直し ④連携自治体及びマスコミへの教員紹介機会の増加	
	<p>● 「地域協創拠点」から「地域に愛される・頼られる大学、地域に寄り添う大学」を連想させ、地域の住民、地元企業・自治体等との密着度を高め、地域の住民、地元企業・自治体等の要望 (=「夢」) に応える使命・役割を推進します。</p> <p>● 地域協創拠点としての役割の推進</p>	核となる3つの戦略			

重点方針	戦略分野	行動目標	KGI	実施計画
核を強化させる4つの戦略	4. 学生支援の充実 学生満足度を向上させるために、学生が意欲をもって学業や課外活動に取り組める環境を充実させる。 併せて、主体的な学生に対する育成プログラムの開発、学生へのサポート体制の強化、自立に向けたキャリア形成支援の充実を図る。	(1) 学生の正課外活動環境の充実	◎学生満足度 100% ◎資格取得率の増加(H30年度比 10%増)	①多様な就学支援に対応した奨学金の充実と改善 ②生活支援・課外活動支援の強化 ③自主性を重んじた学友会活動の活性化
		(2) 主体的に活動するための学生リーダー育成プログラムの開発と運用	◎育成プログラムの構築と実施 ◎育成プログラムの登録率 ◎学生リーダーの育成数	①地域活動に必要とされる資質を身に付けた人材の育成 ②社会的自立に必要な責任感・思考力を身に付けた人材の育成 ③職業的自立に必要な就業力を身に付けた人材
		(3) 個人の自立に向けたキャリア形成支援	◎就職活動開始の遅延者の減少 ◎合同企業説明会等への参加者数の増加 ◎就職率 100%	①学科と連携したきめ細やかな支援の強化 ②各企業説明会と企業研究会の充実と改善 ③企業・行政機関・産業界との情報交換の強化
		(4) 学生・保護者・教職員の三者一体となった学生情報共有システムの構築と運用	◎保護者への学生情報の開示	①修学・学生生活に係る学生指導・学修指導体制の見直し ②出席管理システムに必要となるICTインフラ整備
	5. グローバル化の推進 自らの国や地域の伝統、文化について理解を深め、異なる文化の人々とともに生きる寛容な精神を有し、英語によるコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的に教育研究を推進することで国際社会に貢献する大学を目指す。	(1) グローバル化に対応した人材の育成	◎海外派遣事業への在学学生・教職員の参加率 年間10% ◎海外連携協定校との交流機会の増加	①海外留学事業経験者による学生への留学啓発活動の推進 ②海外連携協定校と学生・教員の定期的な交流 ③海外語学研修先の開拓と充実 ④海外インターンシップの活性化
		(2) 教育・研究のグローバル化	◎海外連携協定校との共同研究 5~10件実施 ◎海外連携協定校数の拡充 ◎グローバル教育に関する満足度の向上 ◎英語能力試験の成績向上	①海外協定校との共同研究の推進 ②海外大学との連携協定の拡充と交流促進 ③グローバル教育の向上に向けた企画立案
		(3) 地域・社会のグローバル化への貢献	◎グローバル化に関する講座への地域住民の来場者数の倍増 ◎地域住民のグローバル化に関する認知度の倍増	①外国人留学生と地域住民との異文化交流機会の促進 ②地域住民や小中高校等を対象としたグローバル化に関する講座の提供 ③地域自治体や企業と連携し、本学のグローバル化の情報発信強化
		(4) 学生間交流の推進	◎留学生と交流した日本人学生の割合70~80% ◎国際センターの日本人学生の利用者数増加(H30年度比 5倍) ◎日本人学生と留学生との交流の場である国際寮の整備	①留学生と日本人学生が協働して活動できる環境の構築 ②国際センターを日本人学生と留学生の交流の場として活用できる運用方法の構築 ③日本人学生と留学生が共同する国際寮整備についての情報収集と具体的案の検討
	6. 中高大連携の推進 学園の特色及び学園内の繋がりを活かした生徒・学生に有益な教育・交流プログラムを提供する。 そのためにも、教職員が互いを知り、学園全体で生徒・学生を育てていく。	(1) 教職員間の交流の充実	◎組織体制の整備 ◎委員会の定期的な開催	①中高大協働による委員会の展開
		(2) 学生及び生徒間の交流の充実	◎交流数の増加	①中高大連携による交流活動の実施
		(3) 教育及び進学の相互サポートの強化	◎組織体制の整備 ◎留年率・退学率の減少	①中高大教員の協働によるサポート体制の確立 ②中高大における生徒・学生情報の共有
	7. 大学院教育の充実 高度な専門知識と先進技術の修得ならびに接続可能な地域づくり、地方創生を牽引できる研究者・技術者の養成を図る。 そのためにも、学部からの一貫した教育の推進、社会人教育の推進を行うとともに、大学院教育の実質化を図る。	(1) 大学院進学を見据えた教育体系の整備	◎収容定員の充足 ◎英語による講義数の増加	①大学院教育の見直し ②学部から大学院までの一貫した教育体制の見直し ③英語による授業の展開
(2) 大学院の更なる環境の整備		◎環境の整備	①キャリア形成を見据えた支援体制の整備 ②研究活動における環境設備の改善	

重点方針	戦略分野	行動目標	KGI	実施計画	
<p>● 高校生・保護者、地域の住民、産業界等から評価される広報活動を推進し、新たな工大ブランドを確立し、魅力を伝えます。また、国等の動向からいち早く情報を収集し、大学の政策等に資する戦略的な活動を推進します。</p> <p>「魅せる化」の推進</p>	<p>外部アピールを強化する2つの戦略</p>	<p>8. 戦略的な広報</p> <p>福井工業大学ならではの特色と強みを社会に発信し、大学の価値を社会に印象付ける戦略的な広報活動を推進することで、魅力的な大学であるとのイメージを高める。</p>	<p>(1) 大学ブランド力を向上させる広報</p>	<p>◎メディアの取り上げ数の増加</p> <p>◎日経BPコンサルティング「大学ブランドイメージ調査」東海・北陸地区の国公立大学 20位以内</p>	<p>① ホームページ、広報物、各コンテンツの充実</p> <p>② 自治体・産業界との連携取組の情報発信</p> <p>③ メディアを活用した学生・教職員の「教育・研究・クラブ活動等」の情報発信</p> <p>④ 社会で活躍するOB/OGの本学広報への起用</p>
		<p>(2) 受験者層の動向にあわせた入試広報活動の展開</p>	<p>◎オープンキャンパス参加者数の増加(H30年度比20%増)</p> <p>◎オープンキャンパス参加者に対する出願者数の増加(H30年度比15%増)</p> <p>◎志願者数の増加(H30年度比10%増)</p> <p>◎入学定員の充足</p>	<p>① オープンキャンパスの参加促進のための検討・企画</p> <p>② 志願者の能力・意欲等を多面的に評価する入試方法の検討</p> <p>③ 志願状況等を踏まえた入学定員等の検討</p> <p>④ 各部活・サークルにおける試合の動画、学内活動の公開</p>	
		<p>(3) 変化に合わせた迅速な広報の実行</p>	<p>◎全教職員の情報発信件数の増加(H30年度比20%増)</p>	<p>① データ分析による、媒体・イベントの精査</p> <p>② 全学的な広報体制の整備・確立</p> <p>③ SNSを用いた広報活動の強化</p> <p>④ SNS発信に必要となるICTインフラ整備</p>	
		<p>9. 質保証と情報公開</p> <p>三つのポリシーを起点とする教育の質保証と中長期的な計画を踏まえた大学全体の質保証について、教職協働で、改革・改善を推進する。</p>	<p>(1) 内部質保証の機能向上と教育研究活動等の改善・向上</p>	<p>◎ステークホルダーとの懇談実績</p> <p>◎ステークホルダーによる外部評価の導入</p> <p>◎IRによる教育研究活動等の裏付け</p>	<p>① ステークホルダーからの意見聴取と教育研究活動等の改善</p> <p>② 第三期認証評価の受審及び教職協働による内部質保証機能の向上</p> <p>③ 学習成果の可視化とそれに基づく教育課程、講義内容、方法の検討</p> <p>④ IRによる情報収集・分析とそれに基づく改善策の提案</p> <p>⑤ 内部質保証の取組状況の情報公開</p>

(注) KGIの数値については、初年度の実績等に基づいて改めて設定する場合があります。